

研究テーマ	<p>〔Ⅲ 造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと〕</p> <p>～中学校第2学年「ウッドチップを使った箱作り」の実践を通して～</p>
-------	--

那珂市立瓜連中学校 教諭 萩谷 喜美子

1 研究テーマについて

新学習指導要領では、『これからの美術教育の指導のポイント』として、「第1学年と第2学年及び第3学年のねらいの違いを踏まえる」、「主題形成の重要性」、「生活を豊かにする美術の働き」、「多様な表現方法の選択」、「価値をつくり出す鑑賞」、「文化の理解」などを提示している。中学校美術科で育てる資質や能力は、まず、描いたりつくったり、見たりすることに夢中になり、それを楽しむ、美術への関心・意欲・態度、次に自分の思いや願いを形や色などの造形で豊かに表現するための表現の能力、そして美術作品などを鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり味わったり、美術文化を理解したりする鑑賞の能力である、といわれている。美術への関心・意欲・態度～とは、単にまじめに授業に取り組む、忘れ物をしないなどの基本的な生活習慣にかかわる態度のことではなく、表現や鑑賞することが楽しい、新しいものをつくり出すことに喜びを感じるなど、表現や鑑賞の能力を高めることに向かう関心や意欲、態度のことであると示している。

生徒の様子を観察していると、創作活動が大好きな子は、中学校へ入学してきたと同時に積極的に資料を準備したり材料に関わったりしながら自分の思いを作品にぶつけようがんばっている。一方で、どちらかというと「美術は苦手」という気持ちで美術をスタートする生徒もいる。何とかしなければというまじめな気持ちがあるので授業においては一生懸命に友だちの様子をみながらその真似をしたり教師にアドバイスを求めたりしながら、とりあえず何かを作ろうとする姿は見られる。しかし、楽しんで創作しているようには見えない。仕上がった作品についても自信がもてず成就感というよりは創らなければ・・・という義務感に駆られているかのように見えた。これでは、とうてい自分らしい表現ができたとは言えない。今回の「ウッドチップで作る〇〇箱」の実践では、使う目的を考え、材料に触れながら構想を練り、手作りのよさを生かしてつくり、自分の生み出したものに愛着を感じ、生活の中で使っていこうという気持ちにさせたいと考えた。今まで経験したことのない表現活動を通して、新しいものをつくり出す喜びを感じさせたいと考えた。

○ ねらいに迫るための手立て

(1) 材料に触れ、材料を知る

実際に使うウッドチップは端材を加工したもので、一つ一つはとても小さなブロックであるので、さわったり積み上げたり並べたりして、手触りやチップの色合いなどを確認させたいと考えた。小さい頃の積み木遊びの感覚でチップに触れながら、作りたいものをイメージさせたいと考えた。また、木のもつ温もりも体感できると考えた。

(2) 制作の手順の確認と制作の見通し

大きな流れとして、①形を作る（接着剤で）、②表面などを磨く・面取りをする、③表面に塗装（蜜蝋ワックス）するという手順を知ること、制作時間を知ることによって計画的に制作しようとする意欲がわく。また、制作の見通しがもてると考えた。

(3) 〇〇箱の機能性を考える

〇〇箱として機能するサイズについて、鉛筆やペン類、CD、MD、文庫本などの実物を提示しておき、いつでも確かめることができるようにした。形に対する思いだけが一人歩きしないように、「使うものを作ること」を常に意識させた。ここで、限られた材料の無駄のない生かし方について構想を練る様子もみられた。

(4) 接着の技術と作品の強度

飾って置くだけでなく使うものとしての強度は大切なので、接着剤での面の接着のしかたについて丁寧に演示したりポイントについて図示しておきいつでも確かめられるようにした。

2 実践例

(1) 題材名 こんな「〇〇箱」つくるぞ～～

(2) 目 標

- ・ 木（ウッドチップ）に興味をもち、使うものを意欲的に制作しようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 機能性や材料の特性を意識し、自分らしい形を構想することができる。
(発想・構想の能力)
- ・ 接着や研磨、塗装の技術を身につけ、強度のある形を発展的に表現することができる。
(創造的な技能)
- ・ 完成した作品について発想や表現の工夫について語り合い、交流を図る。
(鑑賞の能力)

(3) 題材について

中学2年生ともなると、1年生の頃とは違ってさまざまな表現活動に興味をもつようになる。絵画であれば、写實的に描きたい、遠近を表現したい、立体感を表したいという思いで鉛筆や絵筆を握る。また、自分と友だちの作品を比較したりして客観的に観るようになる。そうして、思い通りに創ることができないと、創造したい気持ちと技術面のギャップに悩み自信を喪失したり劣等感を感じるようになる生徒もいる。

また、昨今の溢れる情報の中で自己の確立ができない生徒も見られる。幼い頃からのゲーム等バーチャルな世界での遊びが本物に触れる感性を鈍くさせていると感じることも多々ある。友だちが持っている同じデザインの無機質な工業製品に囲まれて生活することで仲間意識や繋がりを感じている生徒もいる。そのような実態の生徒達に木のちいさなチップではあるが本物の素材を提示し木のよさやきの香りを感じながら指先を駆使してのもの作りを体験させたいと思った。本題材は、ウッドチップを寄せ木のようにいくつも接着して、箱というかたちを創り出すことで、試行錯誤しながらもの作りをする充実感を存分に味わえるものと考えた。異種のチップの異なる色の組み合わせ方や、仕上げ具合で寄せ木細工のような工芸的な要素も味わうことができる。鋸や鉋のような大きな道具を使わず、積み木のように一つ一つのチップを接着剤で積み上げていき、イメージにそって箱という形（立体）を作っていく。作業は特に難しいものではないが、長さ10ミリ～30ミリの小さなチップなので正確な接着のためには根気や集中力が必要である。「こんなイメージのものを作りたい」という強い思いや形へのこだわりの持続が大切である。成形後の仕上げについてもサンダーやサンドペーパーで磨いたりワックスを塗る、など地道で丁寧な作業が続く。制作しはじめは、「こんな形本当に作れるのかな」とか「面倒くさい」などと言っていた生徒たちが、時間の経過とともにのめり込んでいき、「イメージを形にした！」と奮起するようになる。制作途中の作品の取り扱いにも細心の注意を払い、そっと大事に扱うようになる。

ていねいに磨き、ワックスを塗り、また磨き、時間と手間ひまかけてできあがったものは『世界でただ一つのオリジナル』である。鑑賞会では、苦勞して作り上げた作品を友だちに褒めてもらい、認められたことで、満足した表情がたくさん見られた。

(4) 指導計画 (10時間取り扱い)

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	身近にある寄せ木細工等に触れ、美しさや使い易さを感じ取る。	身近な工芸作品(寄せ木細工)に関心をもち、目的をもって意欲的に取り組む。			身近な工芸品から、機能性と美を感じ取ることができる。
1	材料を確かめ、特性などを知り、構想を練る。		目的に合った構想をする。		木の特性を理解する。
5	アイデアスケッチに基づき、〇〇箱を制作する。		機能性を考えながら材料を組み立てようとする。	材料や用具の効果的な使い方や技法について創意工夫する。	
2	成形に表面の研磨とワックス塗装を施す。	美しく仕上げるために丁寧に作業をしようとする。	美しく仕上げるために道具の使い方や制作手順の中で注意することを理解する。		
1	制作した〇〇箱について鑑賞会を行う。	作品をじっくり見たり、感じたことを言葉で伝える。			工芸作品の美しさを理解する。

(5) 学習の実際

時間	生徒の活動	教師の働きかけ
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">導入</div> <ul style="list-style-type: none"> 身近な工芸品(寄せ木細工:無垢のもの)を見て、自然素材のよさについて話し合う。 材料(ウッドチップ)で積木遊び等をして木のチップの手触りを楽しむ。 ウッドチップで作った参考作品(教師使用のペン立て等)を見て、制作の見通 	<ul style="list-style-type: none"> 〇箱根の寄せ木細工(無垢のもの)を見せ木肌の模様や人の作為による幾何学的な模様の美しさやおもしろさに気づくようにする。 〇積木遊びを取り入れることで、形を作るためのウォーミングアップをする。 〇材料に触れ、なじませる。 〇手作りのよさや木の温かみを感じとれる

	しをもつ。	ように作ったときの思い等も話す。 ○作品を見せながら、チップは小さくて軽いけれども、接合の方法によっては強度が増すことも確認する。
1	・ ウッドチップに触れながら、自分の作りたい箱をイメージする。 『こんな「○○箱」作るぞ〜』	○闇雲に積んだり崩したりするだけではなく、作ってみたい形をイメージしながらチップに触れるように促す。
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">展開</div> <ul style="list-style-type: none"> 制作の手順を知る。 アイデアスケッチを基にどのように組み立て接着するか、を計画。 美しく、丈夫にな作品を制作するために〜注意点の確認。 制作 木工ボンドでウッドチップを接着し成形する 形を整えながら接着していく チップの配色を考える 各サイズのチップの組み合わせ ↓ 	○参考作品を見ながら、底面の形・大きさ作品全体の大きさとチップの数について見通しが持てるように説明する。 ○面と面の接合の仕方、底面と側面の関係が強度を保つために大切であることを演示しながら説明する。 ○木工ボンドの使い方について、実際に演示し、机間指導で個別に指導する。 ○一つの面を作るときには、いったん平面上にチップを並べてみて木の配色やサイズを確認してから（試行錯誤して）積み上げ接着するように計画性をもたせる。
2	表面を磨く、面取りをする ↓ ワックスを塗布し、さらに磨く	○サンドペーパー・ワックスの基本的な使い方について押さえておく。
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ</div> <ul style="list-style-type: none"> 友だちの作品を見てよさや工夫点を見て話し合う。 友だちから贈られたコメントカードと作品の写真をスケッチブックにて保存。 	○技術的な面だけでなく、形の工夫や作者の作品に対する思いを感じ合うように促す。 ○生徒全員の作品をデジカメで撮影しておく。

作品例（一部）



<チューリップの花>箱



<お金を貯めたい>箱



<大事なものを入れるぞ>

☆生徒のスケッチブックより



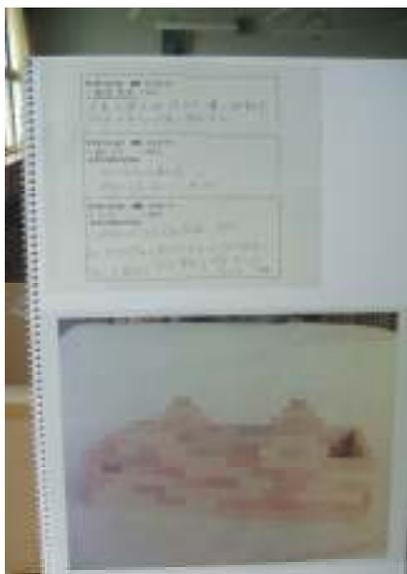
<クジラのお腹箱>



<大好き：嵐のお宝箱>



<〇〇のたてがみの箱>



<縁飾りのついたおしゃれな箱>



<市松模様の箱>

※ 写真の下等に添付してあるのは、友だちからのコメントカード。

3 成果と課題

本題材は、とても細かい作業の連続で忍耐が必要な内容だが、試行錯誤しながらじっくり取り組めたので生徒たちはみなそれぞれの個性に応じた作品を作ることができ満足して終わることができた。材料を提示したはじめの頃は、ウッドチップの数の多さに圧倒されたり作業の細かさに引き気味な様子が見られたが、制作が進むに従い「もっと複雑にしたい」「もっと磨いて美しくしたい」などと創作活動を追究する姿がたくさん見られた。数名の生徒が「夢のような」形の箱を作りたいと計画したが、球形であったり曲面があったりして実現がかなわず計画の変更をすることになってしまった。思いを実現させてあげられない自分の技量不足を反省するとともに実態把握を綿密にしておくべきだと実感した。

立体作品なので一人一人の作品を写真で撮影しスケッチブックにポートフォリオとして残した。実際作品は家で使っていたりするが、3年生に進級してからも懐かしく振りかえっている。